

いこいの村 お料理教室

題字 梅の木寮

2014年（平成26年）3月20日発行

第382号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター

所長 柴田 浩志

編集 いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

いこいの村デイサービス お寿司パーティー



次々に握られる“職人技”に皆さん釘づけです！

手遊び・ひょっとこ踊り・腹話術と多彩な出し物に笑顔！

2月22日（土）、
デイサービスセンターの近
所の豊寿司さんにお越しいた
だき寿司を握っていただきま
した。



「いやー。目の前で職人が
握ってくれるんか」

普段とは違う特別感が、利用
者の皆さんの心をワクワクさ
せます。「こんなにせいたくし
て良いんやろか。幸せやわ
ー」大満足の声があがります。
「デイサービスでおいしい寿
司を食べたい」との昨年度か
らの要望が実現しました！

また、午後からは、『スマイ
ルたの』の皆さんが趣向を凝
らした出し物を披露され、利
用者の皆さんに笑顔の花を咲
かせていただきました。

「あー。楽しかった」

お腹も心もいっぱい満た
された特別な一日はあつとい
う間に過ぎました。

（高齢福祉部デイサービス係

菅井奈津子）

笑顔の写真展

1年間の笑顔の写真を集めました。



うどんが上手に打てました



おいしいデザートいただきます



パン作りって 難しい！



たからの里には5名の仲

間(利用者)が栗の木寮、コ
スモス寮、綾部市内から通っ
ています。

新しい仕事への挑戦

たからの里の仲間は、これ
までで上がった商品(石窯
パン)の納品、販売が仕事の
中心でしたが、昨年末から新
しい仕事を始めました。

《仕込み》

材料を計り、混ぜる作業で
す。仲間からは「正確に計れ
るか心配」と不安の声。「あと
1g...。あー、多過ぎたー。
もう一度」と何度も繰り返し
練習して、今はとてもスムー
ズに計れます。



グラム数は大丈夫かな。少
し減らして調整しよう。



手で混ぜるのは力があるな
あ。ていねいに、ていねいに。



手の形を丸くして...。
なかなかうまくいかないなあ。

自分たちの手でパンを作
り、販売することで、パンが
売れた時「ありがとう」「この
前のパンおいしかったよ」と
言われることの喜びが大き
くなったように感じます。

これから皆さんにおいし
い石窯パンをお届けできるよ
うに頑張ります。

(いこいの村・栗の木寮

前川恵子)



いこいの村

聴覚言語障害セク

所長 柴田 浩志

感染症予防に全力

1月、2月と、全国的にイ
ンフルエンザが流行し、いこ
いの村でも、インフルエンザ
対策に全力で取り組みました。
昨年11月には利用者、職員が
インフルエンザワクチンの接
種を受け、流行の兆しがある
と、看護師や各部の責任者で
構成する感染症予防委員会を
随時開催し、情報共有を図り
ました。

1月に入り、職員や栗の木
寮の利用者がインフルエンザ
に感染し、うがい・手洗いの
徹底マスクの着用、施設内の
移動制限等、いこいの村内で
の感染拡大防止に努めました。
また、この時期はインフルエ
ンザのみならず、ノロウイル
スの発生時期でもあることが
ら、1月末には全職員を対象
に感染対策研修を開催しまし
た。

梅の木寮ユニット化の効果
今年は、現在までのところ、
梅の木寮でのインフルエンザ
やノロウイルスの発症はあり
ません。昨年12月から全部が
ユニットケアに切り替わり、
個室での生活になったことで
感染のリスクが低くなりました。
た。

一方、栗の木寮では一部屋
に二人が生活しているため、
どちらかが感染すると、他の
方にも感染する状況にありま
す。これまでは、体力もあり、
抵抗力もあった栗の木寮の利
用者も高齢化が進み、施設環
境の改善が求められています。
山に雪が残っているせいか、
風は冷たいですが、そこそこ
に春の気配を感じます。いこ
いの村の梅の木にも小さな
「つぼみ」が付き始めました。



